

世界経済・金融市場動向(日本)

先月の振り返り

01 日本株式市場

11月の日経平均株価は下落しました。月初は衆院選で与党が絶対安定多数を確保したことや海外株式の上昇を背景に日本株式も上昇しました。しかし、月末付近にオミクロン株が出現したことで投資家のセンチメントが悪化し株価は大幅に下落しました。

02 日本債券市場

11月の日本長期金利は低下（価格は上昇）しました。政府から大型経済対策の発表を受けて一時的に金利上昇する局面もありました。月末にかけて金利は、株式市場が下落しとなどリスクオフムードが強くなり低下しました。

経済金融環境

01 日本経済環境

日本の物価動向について企業間物価と消費者物価の乖離幅は拡大が進んでおり、企業の価格転嫁が進んでいないことが確認されます。

日本の企業センチメントについては、製造業が高位推移するとともに国内コロナ感染者数の落ち着きからサービス業も改善傾向が継続しています。

今後の見通し

01 日本株式市場

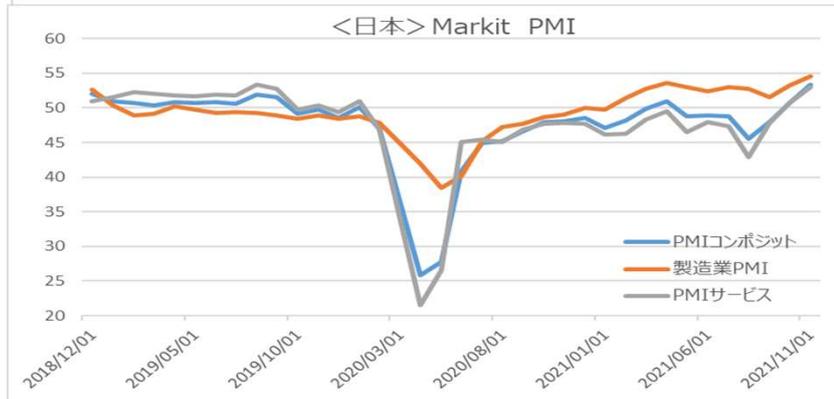
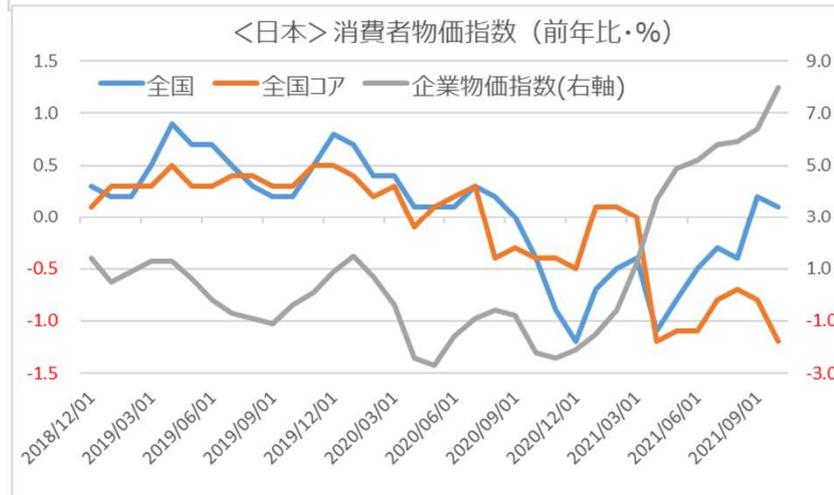
国内コロナ感染者の減少を背景にサービス業種を中心に相場は底堅く推移することが見込まれます。

一方、サプライチェーン障害の回復状況や仕入れコスト上昇の価格転嫁の進捗、消費者マインドへの影響は注視が必要と考えます。

02 日本債券市場

米国を中心とした海外の金融緩和縮小への動きの中で変動性の高い相場展開が継続することを見込みます。

ただし、国内における消費者物価は低位での推移が続いていることから、国内金利上昇幅は限定的と考えます。



(注) データ期間：2018/11/1～2021/11/30
(出所) Bloombergのデータを基にFDA作成

世界経済・金融市場動向（米国）

先月の振り返り

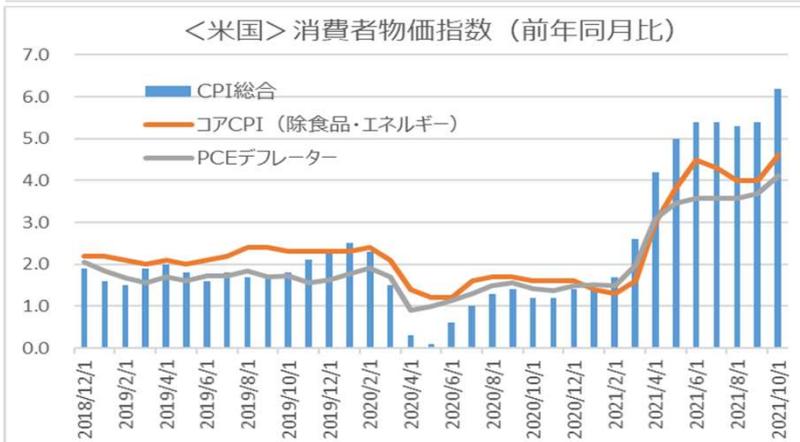
01 米国株式市場

11月のS&P500指数は下落しました。FOMCの決定内容が想定内となったことや、1兆円のインフラ法案の下院通過などをきっかけに過去最高値を更新しました。しかし、FRBの金融政策の姿勢変化やオミクロン株出現により月末にかけて株価は下落しました。



02 米国債券市場

11月の米国長期金利は低下（価格は上昇）しました。英国の利上げ見送りなどが好感され上旬は金利低下した後、インフレ高進および金融緩和縮小が意識され、金利上昇に転じるなど不安定な動きとなりました。月末にかけてはオミクロン株に対する不透明感から安全資産とされる米国債が買われる展開となりました。

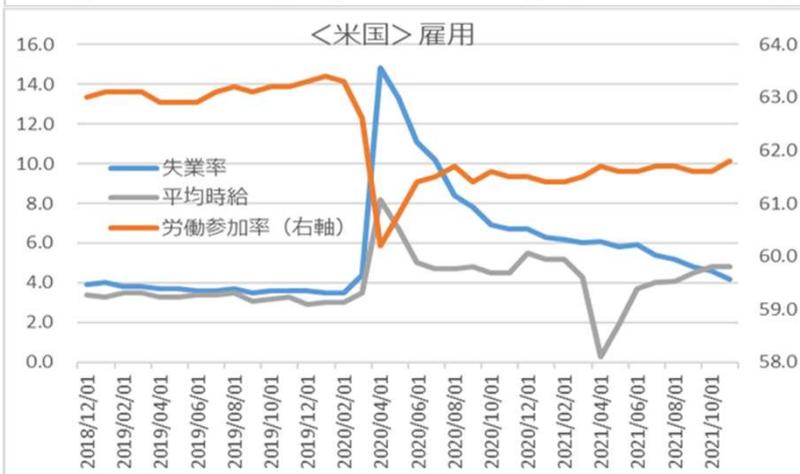


経済金融環境

01 米国経済環境

米国の消費者物価は、31年ぶりに6%台まで上昇し物価上昇ペースの加速も確認され、消費者マインドの低下がみられました。

米国の雇用環境は労働参加率が伸び悩んでいる一方、失業率は低下傾向が継続しています。



今後の見通し

01 米国株式市場

ここもとの消費者マインドの低下が実際の消費行動に影響を及ぼし、景気に減速感が出てこないか警戒が必要と考えています。

また、消費者物価の上昇速度や供給制約の動向次第で、金融政策も左右される展開が継続すると考えることから変動性が上昇する局面もあると考えます。

(注) データ期間：2018/11/1～2021/10/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDA作成

02 米国債券市場

インフレ高進の中では、金融当局が金融引き締め姿勢に向かうことから短中期国債は金利上昇圧力がかかりやすいと考えます。

長期国債は供給面のインフレを抑えるための利上げについては景気減速に繋がると考えることから金利の上昇は緩やかになるものと見込みます。